



TOBU HOTEL



KKB 関越交通

2019年6月10日

関越交通株式会社
群馬県利根郡片品村
片品村振興公社株式会社
一般社団法人片品村観光協会
株式会社東武ホテルマネジメント

群馬県利根郡片品村の高原野菜を、東京・銀座の「コートヤード・マリオット銀座東武ホテル」で提供します！

～6月17日より関越交通の路線（客貨混載）バスを配送の一部で活用！～

関越交通株式会社（本社：群馬県渋川市、以下「関越交通」）、群馬県利根郡片品村（以下「片品村」）、片品村振興公社株式会社（本社：群馬県利根郡片品村、以下「道の駅 尾瀬かたしな」、一般社団法人片品村観光協会、株式会社東武ホテルマネジメント（本社：東京都墨田区、以下「東武ホテルマネジメント」）は、2019年6月17日（月）より関越交通の路線（客貨混載）バスを活用し、片品村の新鮮な高原野菜を東武ホテルマネジメントが運営するコートヤード・マリオット銀座東武ホテル（以下「銀座東武ホテル」）のbuffetで提供します。※buffetでの提供は6月18日より

これまで、片品村の高原野菜を都内の飲食店などに販売するには、各農家の方が個別に販路を開拓し、配達手配を行っていました。また、銀座東武ホテルでは、buffetで採れたての新鮮な食材をお客さまに提供したいという強い思いがありました。

このたびの取り組みでは、農家の方が収穫した高原野菜（糖度の高いとうもろこしやトマト、特産の花豆等）を「道の駅 尾瀬かたしな」に集め、関越交通の路線バスに乗せて、ヤマト運輸沼田支店近くのバス停（久屋原東バス停）まで配送します（客貨混載）。そして、ヤマト運輸のセールドライバーが荷物を引き受け、沼田支店から発送し、当日の18時までには銀座東武ホテルに配達します。銀座東武ホテルでは、前日の仕込みに間に合い、翌朝以降のbuffetで新鮮な食材をお客さまへ提供することが可能となります。

本事業により関越交通は高原野菜の輸送による新たな収入源が生まれ、片品村では銀座東武ホテルでの食材活用によるPRや販路の開拓、東武ホテルマネジメントではお客様サービスの向上や他のホテルとの差別化等を図ることができます。

今後も関係各社では、地域における課題解決と地域活性化に取り組んでいきます。

■事業の概要



事業の取り組み詳細

- 1 開始日 2019年6月17日(月)～毎日
- 2 ねらい
 - ・関越交通：路線バスの空きスペースで高原野菜を輸送することでバス路線の生産性を向上させ、新たな収益源とし、バス路線網の維持を図ります。
 - ・片品村：銀座東武ホテルでの食材活用による地域のPRや販路の開拓を図ります。
 - ・銀座東武ホテル：お客様サービスの向上や他のホテルとの差別化を図ります。
- 3 出荷する主な高原野菜 とうもろこし、レタス、トマト、大根、花豆等
※季節により出荷する農産物は異なります。
※1日あたり最大約20kg
- 4 配送ルート
 - ◆片品村農家の方が「道の駅 尾瀬かたしな」へ出荷
→道の駅係員が「道の駅尾瀬かたしな前」バス停よりバスへ積載
 - ◆関越交通 鎌田線（上毛高原駅～沼田駅～鎌田～大清水間）
 - ・「道の駅尾瀬かたしな前」バス停（群馬県利根郡片品村） 7:56 発
 - ↓約21.6km（客貨混載）
 - ・久屋原東バス停（群馬県沼田市） 8:43 着（※8:36 着）
（※は、冬季（12/16～3/31）の予定時刻）
 - ◆配送業者（ヤマト運輸）
 - ・ヤマト運輸沼田支店（群馬県沼田市） 9:00 頃発
 - ↓当日配送
 - ・銀座東武ホテル（東京都中央区） 18:00 頃着
- 5 高原野菜提供先 「コートヤード・マリオット銀座東武ホテル」
高原野菜は同ホテル内のレストラン「NYグリル&ブッフェ フィオーレ」のサラダバーでお客様に提供されます。
 - ・「NYグリル&ブッフェ フィオーレ」について
NYを意識したモダンで上質な店内とライブキッチンに並ぶ豪快なグリル料理の数々。バリエーション豊富なパンやサラダバー、彩り鮮やかなフルーツ&スイーツなど約60種類をお楽しみ頂けます。
 - ・営業時間：6:30～22:00（年中無休） ・席数 97席
 - ブレックファーストブッフェ 6:30～10:30
 - ランチブッフェ 11:30～15:00(平日) / 11:30～17:00(土日祝)
 - ディナーブッフェ 17:30～21:30



△新鮮なサラダバー（イメージ）

客貨混載事業について

関越交通株式会社とヤマト運輸株式会社は、2018年10月16日（火）より、群馬県沼田市と同県利根郡片品村間で、路線バスを活用し宅急便を輸送する「客貨混載」を開始しています。

本取り組みにより、関越交通は宅急便輸送による新たな収入源が生まれ、路線網維持につながり、一方ヤマト運輸では、セールスドライバーの走行時間が減り、現地での滞在時間が増えることで、お客さまのご要望にお応えしやすくなりました。

2019年5月1日（水）からは、さらに客貨混載の便を1便加え、さらなる地域住民のサービス向上を図っています。

【参考】リリース（2018年10月16日）

http://www.yamato-hd.co.jp/news/h30/h30_65_01news.html

以 上